

[DVDの内容]
 「車いすバスケットボール」田中恒一さん
 (第1 腰髄レベル・不全麻痺/受傷歴 15 年)
 「パソコンで世界を広げる」村上真一さん
 (第4 頸髄レベル・完全麻痺/受傷歴 16 年)
 「資格取得を目指して」古川正利さん (第9 胸髄レベル・完全麻痺/受傷歴 30 年)
 「企業での挑戦」橋本三左子さん (第7 頸髄レベル・完全麻痺/受傷歴 32 年)
 「リハビリの限界へ」諸岡卓也さん (第5 頸髄レベル・不全麻痺/受傷歴 4 年)
 「車いすの理容師」酒井秀夫さん (第8 胸髄レベル・完全麻痺/受傷歴 15 年)
 ((独)福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業により
 作成されたものです。)

このDVDは6つのストーリーで構成されており、それぞれ異なる障害レベルと受傷歴の6名が、どのように障害を乗り越え、現在のようない日常生活を送っているかを語っている。

脊髄損傷者となった後、自ら会社を作った人、スポーツで世界を目指す人、家族と共に子育てに奮闘する人など、様々な視点から夢や目標に向かって自分らしく進み続けていることの意味や楽しさを伝えてくれる。

また暮らしの中でそれぞれの方が工夫をしているのかも紹介しており、即使用えそうなアイデアもたくさんあるので、脊髄損傷者の方本人だけでなく、身近な人にも是非ご覧いただきたいDVDである。

カラー版
 全6編 27分



DVD「TOMORROW」新たな扉の向こうへ

バリアフリームーブメント

「いざ」じゃないとき知る知識！
 「いざ」というとき引き出す知識！

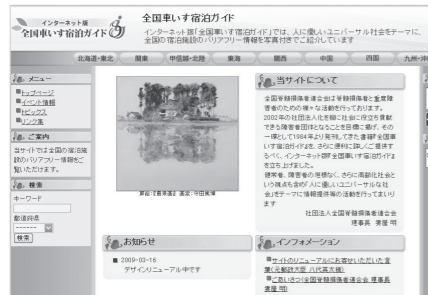
vol.75

「車いすを使用している人に利用しやすい宿泊施設を一気に検索！」

バリアフリーな社会を生きるため、必要なことを先取りしよう！

既存の製品をより多くの人が使いやすいようにしてくれるモノ、今まで使いにくかったものを使いやすくするためのモノ等、これからどんどん増えてくるバリアフリー化された製品や情報を紹介しているこのコーナー。今回は「車いすの人にも役立つ情報」を紹介する。(森川 美和)

インターネット版「全国車いす宿泊ガイド」 <http://www.raqqo.jp/sys/portal/>

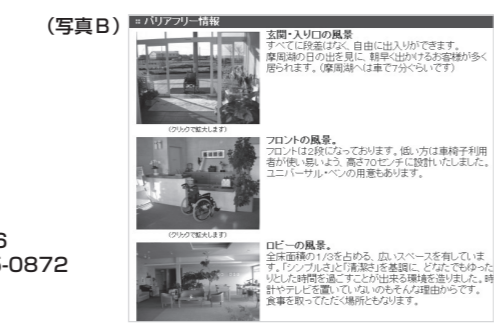


【問い合わせ先】
 (社)全国脊髄損傷者連合会
 〒134-0085 東京都江戸川区南葛西 5-13-6
 TEL : 03-5605-0871 / FAX : 03-5605-0872
 e-mail : office@zensekiren.jp
 URL : <http://www.zensekiren.jp/>

1984年に第一版を発行し多くの車いす使用者に利用されてきた『全国車いす宿泊ガイド』が、2006年からウェブサイトで閲覧できるようになり、本年見やすさ、検索しやすさを向上させるためリニューアルした。

インターネット版『全国車いす宿泊ガイド』に掲載されている宿泊施設すべてに、「詳細」「バリアフリー情報」「お知らせ」「施設情報」「交通」などのタグがついており、該当する箇所をクリックすると各詳細を見ることが出来る。(写真A)

また「バリアフリー情報」をクリックすると、写真付きで各宿泊施設の情報を得ることができるのもうれしい。(写真B)



もう困らない！『全国車いす宿泊ガイド』を活用して満足宿泊！

脊髄という言葉を知っている方は多い。ではその脊髄が損傷することはどんな状態かと聞かれるとなかなか答えられない。脊髄とは脳から背骨の中を通る太い神経のようなものであり、脳と同じ中枢神経のため、一度傷つくと再生しない。

脳から送られる命令(指示)は脊髄を通り、それぞれの神経に分かれて体の各器官に送られる。各器官から脳に送られる情報も、脊髄を通り脳に伝わっていく。脊髄は私達人間の体を動かす上でとても重要な器官である。

この重要な役割を担う脊髄は部分ごとに、頸髄(C) 8本、胸髄(T) 12本、腰髄(L) 5本、仙髄(S) 5本と尾髄1本から成り立っている。そのどこかを損傷してしまえば、完全に麻痺(完全損傷)してしまったり一部麻痺(不全損傷)してしまった人を「脊髄損傷者」と呼んでいる。

この脊髄損傷は主に事故や病気などによって起こり、車いす生活を送ることとなる。「当たり前前に歩いていたこと」、「当たり前前に食事を口に運んでいたこと」、「当たり前前に字を書いていたこと」など、何気なく行っていた動作が、脊髄損傷により一瞬にしてできなくなる。

「動けなくなった時に感じる絶望感は、例えようのないものだ」と話してくれた同連合会の妻屋明理事長。自身も36年前に、高さ4メートル程のところから真つ逆さまに転落し、第4、5頸髄不全損傷となった。しかし「脊髄損傷になった自分だからこそできることがあるはず」と気持ちを切り替えリハビリに専念。事故から約4年後に社会復帰を果たした。

この経験があるから見えてくる社会のあるべき姿。妻屋理事長は社会復帰後、精力的に脊髄損傷者の福祉向上と社会参加のために活動を始めた。また同時に、脊髄損傷者にとつて助かることが別の障害のある人にとつて不便になってはならないと、可能な限りではあるが、より多くの人にとつて利用しやすい製品やサービスとなるよう努めている。

昨今の交通機関等におけるバリアフリー化が進んだ背景には、この団体を始め関係各団体の働きかけがあったことは言うまでもない。

今回はその活動の中から、脊髄損傷という障害に向き合つて、新たな道で輝いている人達を紹介したDVD「TOMORROW」新たな扉のむこうへ」と、誰もが利用しやすいウェブ版「全国車いす宿泊ガイド」を紹介したいと思う。

現在、車いすを使って日常生活を送っておられる方は、凡そ50万人と推定される。それは事故や病気などに起因する。リウマチが原因で歩けなくなつてしまつた方、筋ジストロフィーやALS(筋萎縮性側索硬化症)の方、頸椎損傷や脊髄損傷の方、そして高齢者など様々である。

今回は、約50年間、脊髄損傷の方を支える活動を続けてきた(社)全国脊髄損傷者連合会の取り組みについて紹介したい。

*** 脊髄損傷とは ***